

平成27年度病虫害防除所職員等中央研修の開催

農林水産省消費・安全局は、病虫害防除に係る知識の習得を図るため都道府県病虫害防除所職員等を対象に中央研修を開催している。平成27年度は、12月8～11日の4日間、横浜第2合同庁舎及び植物防疫所研修センターにおいて、39都府県の病虫害防除所等職員及び全国3か所の植物防疫所から計49名が参加して実施された。

研修では、植物防疫課担当官により、植物防疫行政、国の発生予察事業の対象となる指定有害動植物の見直し並びに発生予察情報の提供方法について、農産安全管理課担当官により、農業行政について、さらに外部講師により、微小



図 ミバエ類同定実習の様子

害虫の薬剤抵抗性について、また、アザミウマ類によるウイルス媒介機構についての講義が行われた。植物防疫所は、ミバエ類を中心とした侵入警戒調査対象病虫害等の同定に関する講義・実習、

アザミウマ類・コナジラミ類・アブラムシ類に関する講義・実習を行った。実習では、微小害虫の標本・実物を用いての検鏡等を実施し、現場での業務を想定した実践的なプログラムとなった。研修生からは、植物防疫制度の概要や害虫の基礎知識の理解が深まり、今後の業務に有益である等の感想が寄せられた。

海外のニュース

－ゴマダラカミキリ類の散発的な発生（欧州諸国）－

ゴマダラカミキリ *Anoplophora malasiaca* は、主に日本と朝鮮半島に分布する果樹類と樹木類の害虫である。欧州では本種と中国等に分布する近縁種 (*A. chinensis*) について、侵入を警戒する害虫に指定している（注：本稿での記載は両種を含む）。

EU諸国では2000年代に入り、中国・韓国等から輸出された盆栽・庭木類の欧州での輸入検査で本虫の発見が相次いだことに伴い、欧州は本種に対する検疫条件を変更し2008年11月からは輸出前2年間の栽培要件を修正し、屋外での管理から、網室内での管理を必須とした。

こうした規制強化に関わらず、欧州では近年でも本虫の発生は続いており、その都度根絶防除が行われている。

【クロアチア】2007年の中国産鉢植え苗（イロハモミジ）からの発見以来、複数回の発見事例あり。2014年には育成ほ場においてカエデ属等の苗木から発見され、被害木41本と、そこから半径100m以内にある寄主植物162本を伐採。根絶確認調査を継続中。

【デンマーク】2011年11月、本虫の成虫1頭を発見。発見ほ場で確認された脱出痕のあるイロハモミジ2本を伐採。その後5年間の継続調査を経て、2015年10月に根絶達成。

【トルコ】2014年6月、育成ほ場のイロハモミジ等の苗木から初発見。被害木は全て伐採。その後の調査（EU規程に準拠）では発見なし。根絶確認調査を継続中。

なお、EU諸国における本虫の根絶防除手順は次のとおりである。①本虫の発生調査に基づき発生区域を設定し、その境界から半径2kmの範囲を規制区域に設定。②被害木を中心に半径100m以内の寄主植物を伐採。③規制区域内の調査を最低4年間継続し、発見が無い場合は根絶と判断される。

日本から欧州には盆栽・庭木類が数多く輸出されている。欧州での検査で本虫が発見された場合は、検疫条件の強化に繋がることが懸念されるため、栽培地では検疫条件を遵守し、適切に管理することが重要である。

参考文献

- EPPO (2013) PM 9/16 (1) *Anoplophora chinensis*: procedures for official control. *EPPO Bulletin* (2013) 43 (3) , 518-526.
- EPPO (2015) *Anoplophora chinensis* eradicated from Denmark. *EPPO Reporting Service*. 2015 - 186.
- EPPO (2015) *Anoplophora chinensis* found again in Croatia. *EPPO Reporting Service*. 2015 - 066.
- EPPO (2015) First report of *Anoplophora chinensis* in Turkey. *EPPO Reporting Service*. 2015 - 067.

発行所 横浜植物防疫所
 発行人 小野 仁
 編集責任者 塚本 貴敬
 掲載 植物防疫所ホームページ <http://www.maff.go.jp/pps/>
 無断転載禁止